

# 経済・金融 フラッシュ

## 鉱工業生産 14年10月 ～鉱工業生産は持ち直し

経済研究部 経済調査室長 斎藤 太郎

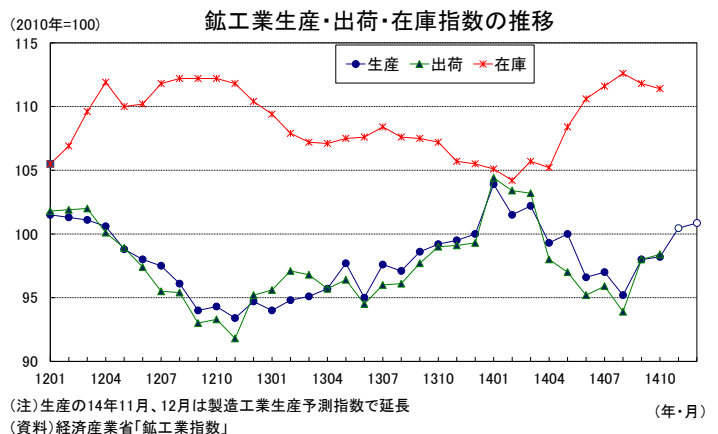
TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. 10月の生産は2ヵ月連続の上昇

経済産業省が11月28日に公表した鉱工業指数によると、14年10月の鉱工業生産指数は前月比0.2%と2ヵ月連続の上昇となった。先月時点の予測指数の伸び（前月比▲0.1%）、事前の市場予想（QUICK集計：▲0.6%、当社予想は同▲0.8%）をともに上回る結果となった。

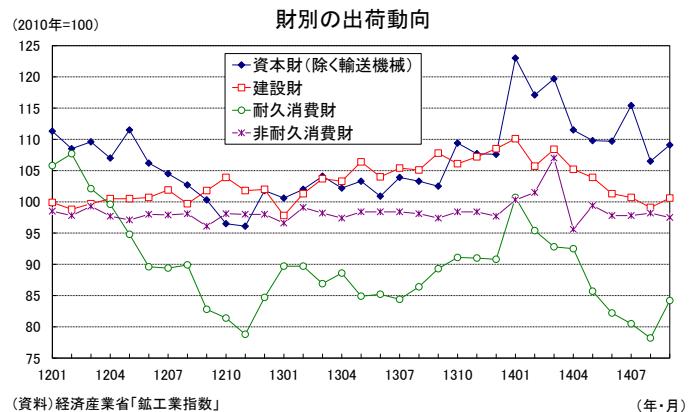
出荷指数は前月比0.4%と2ヵ月連続の上昇となり、生産の伸びを上回った。この結果、在庫指数は前月比▲0.4%と2ヵ月連続で低下した。

10月の生産を業種別に見ると、駆け込み需要の反動減からの持ち直しが遅れ在庫調整が続く輸送機械が前月比▲2.6%、パソコンの反動減の影響などから情報通信機械が前月比▲6.9%の低下となったが、新型スマートフォンやタブレット端末向けの部品の増加などから電子部品・デバイスが前月比1.6%と4ヵ月連続で増加したほか、設備投資の底堅さを反映し、はん用・生産用・業務用機械が前月比4.4%の高い伸びとなった。速報段階で公表される15業種中、6業種が前月比で上昇、9業種が低下した。



財別の出荷動向を見ると、設備投資のうち機械投資の一致指標である資本財出荷（除く輸送機械）は14年7-9月期の前期比0.1%の後、10月は前月比6.4%となった。また、建設投資の一致指標である建設財出荷は14年7-9月期の前期比▲2.6%の後、10月は前月比▲0.7%となった。

GDP統計の設備投資は14年1-3月期に前期比7.5%の高い伸びとなった反動もあり、4-6月期に同▲4.8%の大幅減少となった後、7-9月期も同▲0.2%とほぼ横這いにとどまっ



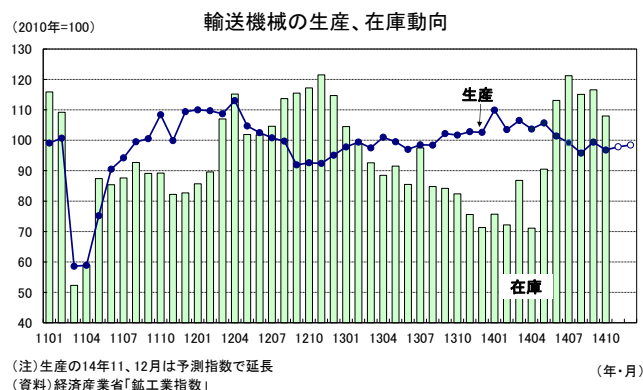
た。ただし、7-9 月期の設備投資の水準は駆け込み需要発生前の 13 年 10-12 月期の水準を上回っており、企業収益の大幅改善を背景とした設備投資の回復基調は崩れていないと考えられる。GDP 統計の設備投資は 14 年 10-12 月期には増加に転じる可能性が高いだろう。

消費財出荷指数は 14 年 4-6 月期の前期比▲7.8%、7-9 月期の同▲3.2%の後、10 月は前月比▲1.2%となった（耐久消費財：前月比▲3.3%、非耐久消費財：同 0.9%）。ただし、耐久財の落ち込みは 9 月の高い伸び（前月比 7.7%）の反動による部分もあり、10 月の指数水準は 7-9 月期よりも 0.5%高く、消費財全体でも 10 月の水準は 7-9 月期よりも 0.3%高い。

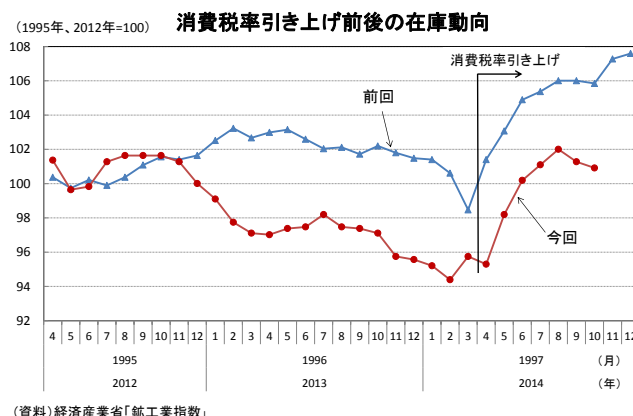
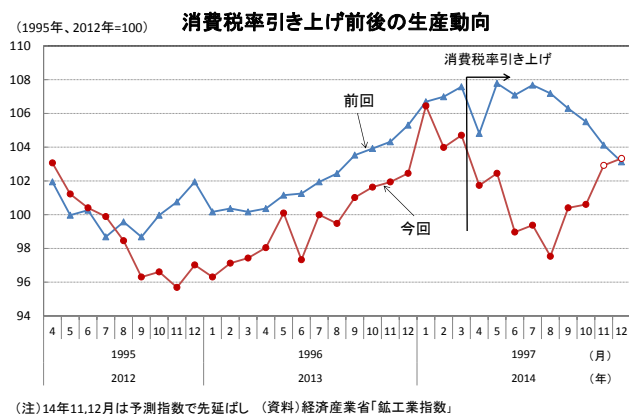
## 2. 10-12 月期は 3 四半期ぶりの増産へ

製造工業生産予測指数は、14 年 11 月が前月比 2.3%、12 月が同 0.4%となった。生産計画の修正状況を示す実現率（10 月）、予測修正率（11 月）はそれぞれ▲1.7%、▲0.4%となった。生産計画が下方修正される傾向は続いているものの、消費増税後から夏場までに比べるとマイナス幅は小さくなっている。

予測指数を業種別に見ると、生産調整を続けてきた輸送機械が 11 月（前月比 1.1%）、12 月（同 0.6%）と小幅ながら増産計画となっているのが明るい材料だ。輸送機械の在庫指数は 13 年 12 月から 14 年 7 月まで 70%の急上昇となったが、10 月は出荷（前月比 2.2%）が生産（同▲2.6%）を大きく上回ったことにより、在庫指数は前月比▲7.4%の低下となり、7 月のピークからは 10%程度低下した。在庫水準自体は依然として高いものの、最終需要が企業の想定を下回ることにより在庫が大きく積み上がるという最悪の状態は脱した。



14 年 10 月の生産指数を 11 月、12 月の予測指数で先延ばしすると、14 年 10-12 月期は前期比 3.2%となる。輸送機械を中心に依然として在庫調整圧力は残っているため力強い回復は当面期待できないが、持ち直しの動きは明確となっており、10-12 月期は 3 四半期ぶりの増産となる可能性が高いだろう。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。